専大スポーツ
［専大スポーツ］https://www.senshu-u.ac.jp/sports/
No.477

専大スポーツ編集部公式WEB
掲載記事を含む全文はコチラ⬆
X
@sensuponow
Instagram
sensuponow

グランドスラム達成

卓球・女子

リーグ戦 2季連続47回目の優勝



優勝を喜ぶ女子チーム
撮影＝君嶋

秋季関東学生卓球リーグ戦＝9月14～26日、渋谷区・代々木第二体育館ほか

女子が春季に続く7戦全勝で、2季連続47回目の優勝を飾った。春季関東学生リーグ戦、全日本大学総合卓球選手権大会・団体の部（インカレ）、秋季関東学生リーグ戦と、学生団体戦の主要3大会を全て制する〝グランドスラム〟を達成した。

最終戦は、同じく6戦全勝の筑波大との直接対決となった。1番手のダブルスで首藤成美（文3・希望が丘高）・遊佐美月（経営2・愛知みずほ大学瑞穂高）組が先勝したが、シングルス2試合を落とし、1―2と追う展開に。ここでルーキーの田旻一（文1・桜丘高）がフルゲームの接戦を制すと、5番手の首藤も続いて王手をかけた。最後は村松愛菜（文3・富田高）が勝利し、4―2で頂点に立った。

首藤は「グランドスラムも懸かっていてプレッシャーもあったが、チーム全員が挑戦者の気持ちで臨んだことがいい結果につながった」と振り返った。筑波大戦について「試合をする人も応援する人もあきらめずに最後まで戦えた。本当にいいチームワークだった」と語り、「卒業生や家族、監督、コーチなど、たくさんの応援があったから達成できた。感謝の気持ちを忘れずに、これからも専修大学の一員として頑張っていく」と述べた。

個人ではシングルス5戦全勝の田が殊勲賞を受賞。最優秀ペアー賞には、ダブルス7戦全勝の首藤・遊佐組が4季連続で選ばれた。



写真提供＝卓球王国

ルーキー 田が殊勲賞

男子2位

男子は3校が5勝1敗で並んで最終戦を迎えたが、日大に敗れて惜しくも2位となった。シングルス7戦全勝の木塚陽斗（文3・明豊高）が、敢闘賞と優秀選手賞に選ばれた。

（君嶋悠樹・経済3）

73kg級 鎌倉 5位入賞

全日本学生柔道体重別選手権大会＝9月26～27日、千代田区・日本武道館

男子73kg級で鎌倉啓太郎（経営4・習志野高）が5位に入賞した。

9月の東京学生柔道体重別選手権大会の同階級を制して臨んだ鎌倉は、初戦から3連勝でベスト8入り。準々決勝では、東京学生の準決勝で下した荒川琉正選手（國學大）と再戦し、延長戦の末に小外掛けで一本負けを喫した。荒川選手はそのまま優勝した。

2月に肘を手術し、その後はランニングやウエートトレーニングに励んだ。相手の圧力に負けないよう前に出続ける練習を重ね、コンディションも良かったという鎌倉は、「最善の準備はしたつもり。自分の日ではなかっただけ」と結果を受け止めた。



組み手を意識しながら試合を進める鎌倉

関龍聖監督からは相手の奥襟への対応を意識するよう助言を受けたといい、組み負けた展開で焦って技を仕掛けないこと、それを避ける組み手を作ることなどを課題に挙げた。

11月の講道館杯全日本柔道体重別選手権大会に向けて「変えずに、やることをやり続ける。次こそは勝つ」と雪辱を誓った。

（君嶋）

男子エペ団体 準優勝

関東学生フェンシング選手権大会＝9月28日～10月2日、世田谷区・駒沢屋内球技場

6月の全日本学生フェンシング王座決定戦を制し、勢いに乗る男子エペチームは、準決勝で慶大に45―44で勝利して決勝に進出。惜しくも早大に敗れたが、昨年のベスト8を上回り、準優勝となった。

男子エペ個人では泉怜邑（文3・岩国工業高）が3位に入賞し、11月に行われる全日本学生フェンシング選手権大会（インカレ）の出場権を獲得した。個人、団体の両種目で結果を残した泉は、「（個人戦は）気を抜かずに自分のなかでやれることをやりきることができた。（団体戦は）まだまだ自分の足りない部分が見えた。インカレに向けて心身や技術の足りない部分を修正し、優勝を狙いたい」と抱負を語った。

女子では、エペ個人で篠島優衣（経営2・埼玉栄高）が8位となった。

（佐藤佑樹・経済3）



個人で3位に入賞した泉

4年連続3位

日本学生選手権水泳競技大会（水球競技）＝9月10～13日、千葉県・千葉県国際総合水泳場

専大は新潟産業大（23―9）、早大（20―16）に勝利してベスト4に進出。準決勝で筑波大に13―14で惜敗したものの、3位決定戦で慶大に26―10で快勝し、4年連続で3位となった。

ズームアップ！ ZOOM UP

アメリカンフットボール部
SAOTOME TAKUTO

五月女 拓飛（文4・横浜市立東高）



撮影＝木田晨一朗（人間科学3）

七転び八起きのアメフト人生

アメリカンフットボール部GREEN MACHINE（GM）は関東学生リーグ戦（1部BIG8）で開幕から3連勝。好調なチームを支え、60人以上の部員をまとめ上げているのがキャプテンの五月女拓飛だ。

高校ではサッカー部に所属。「大学ではアメフトをする」と幼いころから決めており、GMに入りたい一心で専大を受験し、入学した。入部後は二度の大きなけがに悩まされ、満足のいくアメフト人生を送れてはいない。それでも、逆境を乗り越えた精神力を買われてキャプテンを任されており、「グラウンドに立つ重みを人一倍強く感じている」という。

ポジションはランニングバック。ボールを持って敵陣に走り込んでいく。あきらめずにプレーする姿勢が魅力で、「僕のモットーは七転び八起き。これからも、どんなことがあっても立ち上がっていきたい」と力強く語る。TOP8昇格を目指すリーグ戦。誰よりもアメフトに闘志を燃やす背番号0に注目だ。

（藤原建・法1）